



今月の話題

- 中南米地震工学研修開講
- 通年研修の集団研修完了と個人研修開始について
- 組積造構造実験データベースの公開
- 防災科学技術研究所訪問(4月27日)

研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

中南米地震工学研修開講

国際地震工学センター 主任研究員 諏訪田 晴彦、管理室長 山田 高広

IISEEでは、新型コロナ禍により2022年度の中南米地震工学研修も引き続き、完全リモートで実施しています。参加研修生は建築担当の行政官3名を含む10名が参加しており、参加国は、コロンビア(2)、メキシコ(1)、ニカラグア(5)、ペルー(2)の4ヶ国となります。

研修は5月12日(木)に、開講式を完全リモートにより開催し、スタートしました。

開講式では、JICA 筑波センター睦好絵美子所長と建築研究所澤地孝男理事長が歓迎の挨拶を、コロンビアのロサノ ロサノ カルロス フェルナンドさんが研修生を代表して挨拶を行いました。

本研修は、中南米地域での耐震建築の普及や将来の地震被害の軽減に貢献することを目的として平成26年度から実施されています(これまでの研修修了者数は、11ヶ国から104名(うち建築担当の行政官は7ヶ国から14名))。

中南米地震工学研修

<https://iisee.kenken.go.jp/jp/training/train/latin/>



JICA 筑波 睦好所長



建築研究所 澤地理事長



コロンビアのカルロスさん

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

通年研修の集団研修完了と個人研修開始について

国際地震工学センター センター長 芝崎 文一郎

2021-2022 年度の国際地震工学通年研修における集団研修を、5月13日をもって完了いたしました。集団研修では、研修生は、地震学、地震工学、津波防災の3コースに分かれ、約8カ月をかけて、各分野に係る講義を受講し基礎的及び応用的知識を習得します。

2021-2022 年コースも、前回と同様に、コロナウィルスの世界的流行による入国規制の中、研修生全員が母国に留まった状態で開始しました。2022年5月現在においては16名の研修員が来日できておりますが、2名の研修生が母国から参加しております。4月18日の週には、東北方面への研修旅行も実施することができました。

さて、個人研修が5月16日から始まりました。数名の研修生が遠地に滞在し、個人研修の指導を受けます。研修生全員が母国の地震防災に貢献できる研究成果が得られるよう期待しております。研修生の努力に敬意を表するとともに、講師の皆さま方に厚く御礼申し上げます。

地震工学通年研修コース

<https://iisee.kenken.go.jp/training/train/>

研修旅行レポート -IISEE レギュラーコース

プラタマ ワヒュディ ナスラルさん、インドネシア(Sコース)

私たち IISEE の研修生は、今年度は無事に研修旅行へ行くことができました。4月18日から21日までの間に地震学コースと地震工学コースが合同で訪れたのは宮城県と福島県です。この研修旅行はまず東北大学の松澤教授の講義から始まり、その後様々な場所を訪れました。

実際に11年前の東日本大震災が引き起こした津波の爪痕を見て、どれほどひどい震災であったかを想像するとともに、被災された皆様へ深い哀悼の意を表します。

また、この悲惨な震災に対応するためのたくさんの教訓を得ることもできました。最も印象深かった場所は、荒浜小学校です。海にとっても近いこの小学校は、地震や津波に直面しても力強く立ち続け、周辺に住む人々の避難所として機能しました。この点から、建物そのものの強さは大変重要なことだと言えます。

そして、日本が東北地域の地震と津波の詳細を適切な方法で明確に記録していたことにも深く感銘を受けました。私たちが訪れた資料館や公共施設ではこの震災に関連する全ての情報を保存していました。日本の教育を通じて震災に対する私たち皆の意識はさらに高まりました(「津波てんでんこ」など)。この経験に感謝いたします。



プトラ ヨガ マハディカ クンコロ、インドネシア(Tコース)



東北研修旅行の機会を持てたことを嬉しく思います。学ぶだけでなく、日本の自然と文化に触れることができ、大変素晴らしい経験となりました。お世話になった先生方、IISEE スタッフ、JICA 研修管理員の皆さんは親切で、十分な指導および案内をしてくれました。研修旅行では、津波災害の伝承館や震災遺構を訪問したり、津波堆積物の観察や津波遡上高の測量などの調査を体験しました。驚いたのは、日本政府が2011年の東日本大震災で被災した地域を、将来同様に起こりうる災害の可能性を考慮し、再建できたことです。例えば海岸や川に堤防を建設し、集落を高台へ移転させたことです。避難経路や津波避難ビルも、十分に整備されています。それらは容易な作業ではなく、政府と地域社会間の良好な協力関係が必要であるに違いありません。さらに、両者が津波災害における知識や経験を持続可能な方法で伝達していることも印象的でした。例えば、優れた教育システムを構築し、神話や地元の知恵といった全てのリソースを活用して、地震や津波災害に対処する方法を作り上げています。今回の研修旅行で得た知識と経験は、私の将来の仕事に必ず役立つと確信しています。また、日本で学んだ教訓と経験を活かし、母国インドネシアに貢献したいと思います。



カンボス カランサ エウヘニア グアダルペ、エルサルバドル(Eコース)

4月18日～21日に行われた研修旅行では、東北地方の宮城県、福島県にある震災伝承施設を重点的に訪問しました。研修の目的は、津波をもたらしたM9の東日本大地震の被災地域から、その経験と教訓を学ぶことでした。震災伝承施設のほとんどは、3.11“伝承ロード”の中に位置付けられ、青森、岩手、宮城、福島県をまたがってネットワーク化されて繋がっています。

それらの施設を思い返すと、みやぎ東日本大震災津波伝承館は特に感慨深い場所でした。何より感銘を受けたのは、細部にこだわった表現力、例えば北側に位置する施設の屋根が6.9mであるのは津波がこの地域に到達した際の高さを表しているから、など、数々の災害の記憶も随所に盛り込まれていました。また、同じく印象深い場所は、荒浜小学校訪問です。ここは当時の校長の素早い対応のおかげで約320人の命が救われた避難場所です。今も津波の痕跡を残し、時計は津波が小学校に到達した15時55分を示して止まったままです。私達は、日本が経験したことを目の当たりにし、また今回の研修旅行を通して、防災について理解を深めることができました。教訓として、災害には常に備えておくこと、また地域の状況を把握しておくことが非常に重要であると学びました。迅速な行動の重要性、人命を最優先させ津波から一早く逃げるという意味の“津



楽しむのは今です！



連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願いします。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

波てんでんこ”についても学びました。最後に、未来へ繋ぐかけがえのない命を守るためにもこれらの大切な教訓を忘れてはいけないと思っています。

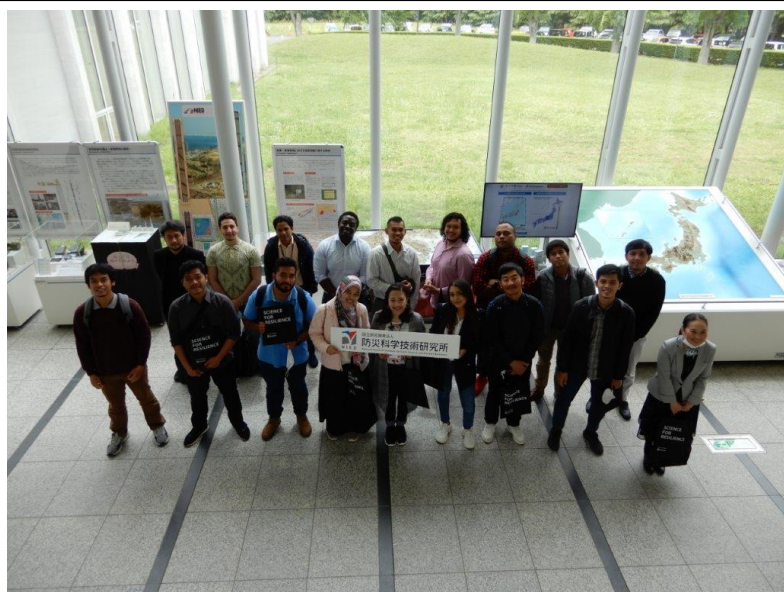


荒浜小学校

防災科学技術研究所訪問(4月27日)

国際地震工学センター 主任研究員 中川 博人

4月27日午前、研修生16名が防災科学技術研究所を訪問しました。研修生3名は、自国からオンラインで講義に参加しました。まず初めに、防災科研の紹介動画を聴講し、次に大型耐震実験施設の見学を行いました。次にオンラインでの講義により、地震津波火山ネットワークセンターの活動の紹介がされました。陸海統合地震津波火山観測網「MOWLAS(モウラス)」などの高密度地震観測網が紹介されました。また、地震減災実験研究部門により、大型耐震実験施設および実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)を用いて行われた構造物の耐震性能評価に関する研究活動が紹介されました。研修生は大変高い関心を示し、活発な質疑が行われました。



防災科学技術研究所